

震源距離と初期微動継続時間の関係とそのグラフ
F8 キーで次の画面へ
間違いは F9 キーを押す

震源距離と初期微動継続時間のデータ表(1)

番号	観測所	震源の距離	P-S時	番号	観測所	震源の距離	P-S時
1	島津	10	2.7	17	野原	191	24.0
2	三泊	14	3.2	18	長崎	204	25.1
3	津島	76	10.2	19	高島	194	27.1
4	橋本	73	10.4	20	八丈	228	30.0
5	横須賀	63	11.4	21	小笠原	289	36.8
6	船橋	116	14.8	22	伊豆	247	38.2
7	船橋	126	16.4	23	高尾	234	32.3
8	船橋	158	20.0	24	高尾	257	35.0
9	船橋	148	20.7	25	八木	292	44.1
10	船橋	164	22.2	26	八木	290	43.8
11	船橋	180	25.7	27	大塚	320	46.6
12	船橋	171	24.5	28	大塚	323	40.0
13	船橋	226	24.6	29	大塚	345	45.1
14	船橋	187	20.3	30	大塚	342	43.7
15	船橋	196	30.8	31	大塚	356	55.0
16	船橋	182	22.1	32	大塚	343	52.0

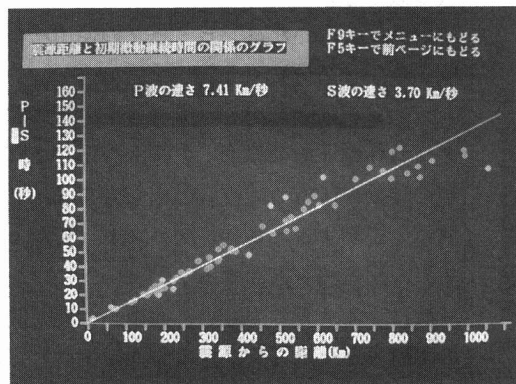
(写真-10 震源距離・初期微動継続時間の表1)

震源距離と初期微動継続時間の関係とそのグラフ
F8キーでグラフ作成へ
F5キーで前の表へ
間違いは F9 キーを押す

震源距離と初期微動継続時間のデータ表(2)

番号	観測所	震源の距離	P-S時	番号	観測所	震源の距離	P-S時
33	和歌山	377	52.5	49	美濃	605	82.7
34	宝州	314	38.5	50	青島	594	89.1
35	宝州	377	50.9	51	青島	617	101.6
36	新宮	422	48.3	52	宇都宮	701	100.8
37	新宮	389	59.8	53	宇都宮	739	108.6
38	新宮	453	68.1	54	宇都宮	837	105.2
39	新宮	485	83.0	55	宇都宮	773	105.5
40	新宮	479	81.9	56	宇都宮	795	101.5
41	新宮	520	65.0	57	宇都宮	798	119.7
42	新宮	532	74.5	58	宇都宮	818	122.4
43	新宮	518	88.0	59	宇都宮	870	102.7
44	新宮	543	66.7	60	宇都宮	866	119.0
45	新宮	565	80.0	61	宇都宮	902	114.3
46	新宮	577	34.7	62	宇都宮	987	121.8
47	新宮	518	72.0	63	宇都宮	990	118.0
48	新宮	648	82.7	64	宇都宮	1052	109.2

(写真-11 震源距離・初期微動継続時間の表2)



(写真-12 各地震波の速さを求めるグラフ)

各測定地における初期微動継続時間は同じ震源距離でも、その間の地盤の性質や構造により異なる。

そのため、グラフは各測定地の“ $Q = \text{初期微動継続時間} \div \text{震源距離}$ ”の単純な平均値を用いた直線のグラフとすることはできない。

グラフに描かれた各測定値(点)の密度の高いところを通る直線を引くため、全体のQの平均値から上下85%以上離れた測定値を除外し、残りの測定値で再度平均値を求めて直線を引くようにした。

⑤ 「5 震源距離と初期微動継続時間の関係表とそのグラフ(再生)」(連続3画面)

上記④のデータをフロッピーに記録しておき、「5 震源距離と初期・・・」で再生するための画面である。データ値の修正にも活用する。

⑥ 「6 おわり」

4 操作方法と留意点

- (1) オートスタート方式になるので、フロッピーをセットして電源を入れれば、プログラムを読み取った後「メニュー」の画面が出てくる。
- (2) 操作方法は各画面ごとに指示してあり、それを見ながら操作する。間違ったキーを押しても復帰するようになっている。
- (3) 各項目の画面が終わると、次に「メニュー」画面に戻る。後は自由に選択して使用できる。
- (4) ③ 「3 地表上の地震波の伝わり方と震央の求め方」の作図による震央の求め方は主として高校地学の内容であり、中学校では省略してもよい。
- (5) ④ 「4 震源距離と初期微動継続時間の関係表とそのグラフ」はデータの数が多いため、データ入力画面を2画面使っている。切り替えは、グラフの画面を含めた3つの画面の間をF8キーとF5キーで自由に往復できる。
- (6) また、間違ったデータを入力したときは、F9キーを押し、その測定地の番号を入力すると正しいデータを入れる空白が出てくる。連続して訂正することもできる。